

# 福島原発事故から7年

## 「3・4 ともに考える市民のつどい」迫る！

誘い合ってご参加くださ～い！

「原自連」の鎌田慧、佐々木寛の両氏を迎えた

シンポジウムと映写会に

注目と期待寄せられる

命を脅かし故郷と生業、日常のくらし等かけがえのないものを人々から奪った原発事故から3月11日で7年になります。今なお5万人を超える人たちが避難生活を余儀なくされています。高線量の構内での事故収束作業は陰しく困難を極めていきます。

福島での原発事故を教訓に2011年以来、世界では脱原発・再生可能エネルギーへの転換が急速に進んでいます。こうした中で、小泉純一郎、細川護熙両元首相が顧問を務める原発ゼロ・自然エネルギー推進連盟（原自連）が全ての原発の廃止及び自然エネルギー

1への全面転換の促進に関する基本法案を発表しました。注目のこの原自連から講師をお招きして、第一部は映画「日本と原発4年後」の上映、第二部はシンポジウムを行います。

福島原発事故が問いかけるものは何か。映画とシンポジウムの「市民のつどい」に、大きな注目と期待が寄せられています。

貴重な機会です。こぞってご参加ください。

福島原発事故が問いかけるもの

### 今年のような大雪時に原発事故が起きたらどうやって避難するの？ 県の検証委員会で徹底検証を！

2月16日、柏崎刈羽原発の安全性を巡る県の「三つの検証」を取りまとめる総括委員会が発足し、本格検証の態勢が整いました。



底的な検証が求められます。

2月7日の大雪の日、柏崎での会合に交通の混乱で到着できなかった米山知事は、「図らずも証明されたが、大雪は一層状況を悪くする」と実感を含めて語りました。原発事故からの安全な避難が可能なかどうかを含めて徹底

またもや 東電は

東電の隠ぺい体質がまた明らかになりました。柏崎原発の6・7号機のフィルター付きベントが地震による液状化で損傷する恐れがあることを、地元で説明してきませんでした。

原子力規制委が「東電に原発稼働の適格性あり」とした評価の信ぴょう性が問われます。6・7号機の安全審査合格の大前提が崩壊したと言えるのではないのでしょうか。

福島原発事故から7年  
『ともに考える市民のつどい』

☆とき 3月4日(日)

13時30分より

☆ところ アオーレ長岡 ホールB・C

参加費 500円



#### 【3月の街頭行動】

3月11日(日)

12:00~13:00

アオーレ前 ご参加を！

原発ゼロ長岡市民ネットニュース

第74号 2018年2月22日発行

連絡先 広井洋子 長岡市寿2-5-15

電話・FAX 24-2870

佐藤 090-4925-3707